

平成 30 年 11 月 1 日

学校関係者評価報告書

大阪リハビリテーション専門学校
自己点検・評価委員会

大阪リハビリテーション専門学校（自己点検・評価委員会）が実施した平成 29 年度自己点検・評価表に基づき、下記日時に開催した『学校関係者評価委員会』に於いて以下の意見と評価がありましたことを報告致します。

●日時：平成 30 年 8 月 22 日 19 時 30 分～21 時 30 分

●場所：大阪リハビリテーション専門学校応接室

●委員：正風病院 リハビリテーション部 理学療法士 蓮子 陽平
株式会社 コミュニティケア 理学療法士 久保 尚央
社会福祉法人慶生会 特別養護老人ホーム瑞光苑 作業療法士 小林 正樹
大阪リハビリテーション専門学校理学療法学科卒業生 松尾 康弘
大阪リハビリテーション専門学校作業療法学科卒業生 楠本 涼介
大阪リハビリテーション専門学校理学療法学科在学生の保護者 上原 佳江
大阪リハビリテーション専門学校理学療法学科在学生の保護者 大谷 真弓

●学校関係者評価と意見

A：十分に満足できる B：満足できる C：やや不十分である D：不十分である

項目	学校関係者の意見	評価
【基準 1】 教育理念・目的・育成 人材像等	・モチベーションや意欲の高い学生が多く今後も患者さんから信頼される人材育成をして頂きたいと思う。 ・介護保険分野の臨床実習も取り入れ、医療、介護連携などにおいて、今後必要とされる人材育成に取り組まれていると思う。 ・OCR 学生は、他校に比べ臨床経験が豊富で患者様の評価は高い。OSCE など知識技術のチェックがあり実習後の学生の評価もしっかりされている印象がある。 ・委員会当日に教育目標である「卒業直後から一人で基本的な作業療法が実施できること」について「基本的な作業療法」とは何かをご質問させていただいた。その時に「脳卒中などのオーソドックスな疾患について治療できる」ことや「わからないことを自分から先輩に聞ける」と回答があり、それも大事なことだと感じた。基本的な知識とともに対象者の方の「過去から現在、将来への生活の流れ」や「役割」をOTとしてどう捉えていくかという視点でしっかり考えることも学生さんには大事にしてほしいと感じた。長期実習中にそういった経験をしっかり積み臨床に出られるといいと思う。	A

【基準 2】 学校運営	・ 外部の先生が多いので難しいが、全教員に対して説明報告する機会があればよいと考える。	A
【基準 3】 教育活動	・ 国家試験合格率は高い水準を維持できている。臨床実習における学生個々の到達度や理解力に差が大きいと感じる。文章構成等も課題となる学生も多いため何か指導が必要であると感じる。 ・ 人材ニーズを把握しながら高い国家試験合格率を達成されており、卒業後、即戦力となる人材の教育が行われていると感じた。 ・ 生涯学習として卒業生に対して勉強会を開いて頂き個人の brush up につながっている。今後もこのような卒業生に対して講習会を用いて頂けたらと思う。 ・ 小児では児童福祉領域への O T の職域の拡大や制度の変更が著しく、今後、学生さんの就職先としても広がっていくと思われるので、在学中から制度などを知っていると有利な点もあると思う。	A
【基準 4】 教育成果	・ 退学、留年が、学業面の理由であれば個別対応の強化等、可能な範囲でカバーできる仕組みが構築できないかと思う。 ・ 高い国家試験合格率、就職率が保たれており、現状、十分な成果を上げられていると思う。卒業生がどのような活躍をされているのかについて興味がある。 ・ 就職に関して 100%ですが、今後、留年者の軽減につながる対策を考える必要があると考えられる。 ・ 就業状況一斉調査等のデータをとられてるのは素晴らしいと思う。 ・ 就職先にてアンケートを実施し、卒業生の現状把握に努められていたが、この追跡調査は今後も続けて頂き現学生の学内教育に反映頂きたい。	B
【基準 5】 学生支援	・ 夜間開講という限られた枠の中で、十分な支援体制が整えられていると思います。さらに経済的支援の制度が設けられたら、退学率の軽減にも繋がると感じた。 ・ 様々な社会背景がある学生さんが多く、個別のニーズにすべて対応するのは難しいと思うが頑張っていたきたい。 ・ 教員間で学生の情報がしっかり共有されていると安心した。	A

【基準 6】 教育環境	・最近、当施設でも防災訓練等は利用者からのニーズとしてあがってきている。	A
【基準 7】 学生の募集と受け入れ	・ツイッターやInstagramの活用を検討していると聞いたが、早期実行を希望する。	A
【基準 8】 財務	・公認会計士と学園監事の意見交換できる場があることが大切である と考える。	A
【基準 9】 法令等の遵守	・学生や全教職員で研修会を実施しているのが共通理解を深めている と考える。	A

※上記の意見と評価は委員会席上での意見、後日書面にて提出して頂いた意見、後日面談の上伺った意見と評価を纏めたものである。